

都民に白紙委任状を渡せというのか 政党としてあまりに無責任

日本共産党の志位和夫委員長は23日、国会内で記者会見し、「都民ファーストの会」が同日発表した都議選公約に、築地市場の豊洲新市場移転問題への態度が示されていないと指摘し、「都議選の最大争点で公約を語らないのは、政党としてあまりに無責任だ」と批判しました。

志位委員長が批判

志位氏は、豊洲新市場へのということは、都民に白紙移転問題は、「都民、国民の委任状を渡せ」ということか。食の安全がかかった今度の選挙の最大争点だ」と指摘。自うほかない」と強調しました。民、公明が移転推進の旗をふり、日本共産党が移転中止・築地再整備を訴えるもと、「都民ファーストの会」がどいう態度を取るのか問われ、持統可能な市場の確立を

「都民ファーストの会」が断に段取りが必要というところがあるかもしれない。しかし政党はそうはいかない。都議選に名乗りをあげながら公約でダンマリは許されな

総合的に判断します」とだけ述べています。志位氏は、「これは何も公約していないに等しい。ここでいう『戦略本部』とは都知事がつくったもので、要は都知事に判断を『丸投げ』するということだ。都知事はその立場上、判断に段取りが必要というところがあるかもしれない。しかし政党はそうはいかない。都議選に名乗りをあげながら公約でダンマリは許されな

い。都民からすると、『都民ファーストの会』に投じた一票は、『行方不明』の一票になつてしまふ」と指摘しました。

志位氏は、18日に行われた東京都の専門家会議で、平田座長が「豊洲市場の」無書化を約束することはできない「すべて環境基準にすることを私たちは目指していないわけですよ。汚染が残留されている状態で、じゃあどうするんだという話ですよ」などと発言し、会議が紛糾し破綻したことを指摘。「18日の事態は、豊洲市場移転がいよいよ破綻したことを意味している。汚染土壌の上に生鮮食料品の市場を造るといふ根本矛盾が噴き出している。この問題にどういふ態度をとるかはいよいよ、すべての政党に問われる大争点になつてい」と強調しました。